

書 燈



平成 29 年度こどもの読書週間行事
あべ弘士氏講演会
「地球はどうぶつでいっぱいだ
～北極旅行から絵本ができるまで～」

再定義の時代

鎌田 寛子

先日、新聞を開くと女子大学の PR 記事があり、大学の経営者が、今日の社会における女子大学の存在意義について縷々述べておられた。また別の日には線香業界の方が、若い人たちのなかには線香の香りを臭いと思う人もあるらしいが、それでも現代の生活のなかで必要とされ続けるよう、自分たちは知恵と工夫をめぐらせていると述べておられた。

自分たちの存在意義、必要性を再定義することが求められる社会。伝統産業でも大学でも、昔からあるというだけでは生き残っていけないほど、現代社会は変容し続けている。加えて AI 技術の進歩は、近い将来、多くの職種の仕事を代行できるという。

翻って、図書館司書はどうだろうか。

ある研修で公共図書館の戦後から現代までを俯瞰する講義があった。まず、保存や管理に重きを置いた施設主義の時代（1950～70 年）、貸出サービス・児童サービス重視の時代（1970～90 年）、電算化・省力化の時代（1990～2010 年）、そして、課題解決・まちづくりの時代（2010 年～）。

私が司書として働き始めたのは 1988 年。電算化が進んだその時代に、外目には司書の仕事は「機械でやれる」と見え、その事に問題意識を持った館とそうでない館に分かれたと講師はいう。また、その後のインターネットの普及により、ネット情報が入手できれば、わざわざ図書館まで行かなくても、ある

程度は調べものができる状態が生まれた。図書館に行かなくても、司書に聞かなくても困らない。そのように思う人が増えた時代に、私たちが従前どおりの方法で自分たちの専門性や存在意義を示しても、振り向いてもらえるだろうか。

住民のため資料を収集し、分類し、提供し、保存するという図書館や司書の基本的な機能・役割は、なくてはならないもので、これからも変わらない。ただ、前述の課題解決・まちづくりの時代には、収集や提供のセンス、本と人を結ぶ、または本を仲立ちにして人と人を結ぶスキルとプロ意識が、一層重要になるという気がしている。

サービス対象地域に、必要な資料を量と質を保障しながら、どれだけ幅広く奥深く収集できるか、集めたものと利用者がうまく出合えるように配架、提供できるか。ワンパターンでない、関わる人の創造性が図書館サービスを面白くするのは、先駆的な自治体の事例を見ると明らかである。

一昨年、昨年、そして今年と、中央図書館に新規採用が続いた。利用者に、手渡した本が面白かった、役に立ったと言ってもらえる司書としての素朴な喜びを、彼女たちに受け継いでもらえるよう、先輩ベテラン職員には自らの存在意義を再定義し、あと半歩、自分の仕事の領域を広げてもらいたい。日常業務の忙しさは承知の上で、そう願っている。

（総務課担当課長）

自動車図書館みどり 5号運行開始

藤澤 清隆

1. はじめに

平成 29 年 4 月に自動車図書館(以下 BM)の車輛を更新、5 代目となるみどり号の運行を開始した。本稿ではそれに至る概略と、みどり 5 号について述べてみたい。

2. 神戸市における BM 車輛のあゆみ

神戸市立図書館における BM は昭和 47 年 10 月にみどり 1 号によって運行を開始した。そして昭和 53 年 8 月にみどり 2 号、昭和 63 年 7 月にみどり 3 号と車輛の更新を重ねてきた。当初は約 800 冊積載のライトバン改造車で、2 号はマイクロバス改造車、3 号からはトラック改造車となり、耐久性も向上し、積載冊数も約 2,500 冊となった。

みどり 4 号は日本宝くじ協会からの助成金を基に株式会社北村製作所で製作され、平成 14 年 4 月に運行を開始。積載冊数は約 3,000 冊となり、平成 29 年 3 月まで 14 年間稼動した。この車輛で初めて電動テントと身障者用リフトを搭載し、特に雨天での利便性が向上した。



(みどり 5 号新車輛)

3. みどり 5 号の製作

みどり 5 号製作に際しては、まず近年作られた図書館車の情報収集を行った。特に宝塚市立図書館では平成 26 年 3 月に新車を導入しており、それを見学させていただいたことは大いに参考となった。

製作者については、神戸日野自動車株式会社が落札し、図書館車に定評のある株式会社林田製作所が艤装を担当することとなった。

新車製作に当たっては、故西村信子氏をはじめ計 4 名の方々より多額のご寄付を頂き、車輛製作費に充てさせていただいた。

4. みどり 5 号の特長

みどり 5 号の基本的な諸元は公園進入路の幅やす

テーションの大きさを鑑み 3 号および 4 号を踏襲しているが、5 号ではミッション式がオートマチック式となり、エンジン性能も向上し、坂道などで余裕を持って走行できるようになった。これにより運転手の負担も軽減された。またアイドリングストップ機能も搭載され、資源問題や環境問題にも配慮している。

4 号で導入された身障者用リフトは、今回予算の都合で採用を見送ったが、その分車内が広くなった。電動テントが大型化され、支柱もついたので風への耐久性が向上している。また後部ステップは 3 号では回転式、4 号では外付けとなっており、操作に力が必要とされたが、5 号では引き出し式となり、職員の労力軽減にもつながっている。また下り坂やブレーキ時などに、車内の荷物が前方にずれることがあるため、床埋め込み式フックを設け、ロープやゴムベルトを通し、荷物のずれを防ぐ工夫もしている。

BM では巡回地に近づくとき音楽を流し、駐車時間などの案内放送を行っている。以前はカセットテープを用いていたが、5 号では CD や SD カードに録音した音楽を流す仕組みとなった。これにより経年による音質の劣化が避けられる。

こうした機能の向上に加えて、今回の新しい試みとなるのが、利用者の目を引き、BM をアピールするための車体ラッピングの導入である。導入に際しては「自動車図書館ラッピング意匠選定委員会」を立ち上げ、神戸にゆかりのある、親しみやすい作風の作家に、本などにちなんだ意匠をお願いすることを検討した。その結果、神戸市ごみ収集啓発キャラクター「ワケトン」の作者でもある the rocket gold star こと山崎秀昭氏にイラスト作成をお願いすることになり、快くご協力いただけることとなった。「ワケトン」にも通じる親しみやすいイラストは新たな BM の顔となり、巡回地では特に親子連れの利用者に好評である。

みどり号の塗装は 1 号以来、上部がクリーム色、下部を濃いグリーンという配色が受け継がれてきた。5 号ではそれを踏まえつつ、イラストが入っても違和感がないように配慮した。

5. 旧車の活用と新車お披露目会

今回の新車導入に際しては、旧車の扱いをどうするかということも議論され、一般社団法人日本外交協会の仲介により、南アフリカへ寄贈することとなった。昨今の資源再利用という観点や発展途上国への援助に少しでも貢献できたのは幸いであった。

そして、みどり 5 号製作に当たっては、個人から



の寄付金をいただいたことや、イラストの提供をいただいたこともあり、3月30日に内覧会を開催し、西村氏のご親族や山崎氏にもご臨席いただいた。西村氏のご親族は巡回地にもお越しになり、「故人の遺志がこのように形となって残って市民のためになることは喜ばしい」旨のお言葉をいただいた。

また5月6日にはこどもの読書週間行事の一環として「こどもおひろめ会」を開催した。会では子供に限らず大人の方にも、普段接する機会が少ないBMを見て、乗っていただき、身近に感じていただけるよい機会となった。

6. 今後の展望

BMは平成27年度にステーションの再編を行い、今まで図書館サービスがいきとどかなかった北神地区北部と垂水区北部に新規の巡回地を5か所開設した(『書燈』315号「自動車図書館ステーションの再編について」)。また平成28年度には垂水区にさらに1か所増設し、29年度には唐櫃台への巡回も開始した。いずれの巡回地でも巡回を開始すると利用者から「今まで図書館が遠くて不便だった」といった声が聞かれ、いかに図書館サービスが期待されていたかを実感した。このステーション再編と増設により、市内の図書館サービス網の充実にBMがいくらか貢献できたのではないかと自負している。

巡回するステーション数が増え、運行距離も長くなってきているため、今回の車輜更新で性能と耐久性が向上した新車が導入されたことは、非常にタイミングが良かったといえる。

また近年図書館はもとより、全市をあげて子育て支援に取り組んでいるが、新車には「子育て関連図書コーナー」を開設するとともに、各種子育て情報を掲載したチラシを展示するスペースを設けた。今後も自動車ならではの機動性を活かしながら、利用者のニーズを考えた本を届けるなど、サービスの拡充に努めていきたい。

(市民サービス係)



(唐櫃台新ステーションにて)

〈新規採用職員エッセイ〉

「夢が叶った」のその先は

大野 穂波

大学を卒業し、初めての職場として神戸市立中央図書館で働き始めてから3か月が過ぎようとしています。採用一次試験に向かう新快速電車の中で、今の先輩方が執筆したエッセイを見つけ、憧れとわずかな希望を抱いた日から数えると約1年になります。まさか同じものを自分が書くことになるとは、と感慨深い思いです。

しかし、エッセイを執筆したときの先輩方のように、今の私になれているかと考えると、疑問符を浮かべざるを得ません。配属された調査相談係では、カウンターで、電話で、書架の本を見ている、日々知らない単語が飛び込んできます。様々な分野の専門用語はもちろんのこと、愛知で育ち大学時代を京都で過ごした私は、兵庫県や神戸市に関する知識も足りず、申し訳なく思っています。さらに書庫に降りると、古い本や地図がずらっと並んでいて、私はこの中から利用者が求めているものを探し出せるのだろうか、と不安になります。

それでも今の私は、過去の私が目指してきたものであるはずです。2週間に1度通っていた地元の図書館のカウンターのお姉さんに憧れた自分や、職場体験を申し込むために緊張で震えながら図書館に電話をかけた中学生の自分が見たら、がっかりするようなことはしたくありません。大学生になって図書館でアルバイトを始め、書架から本を見つけることだけでも苦戦している自分に「頑張って良かったよ。」と自信を持って言えるようになりたいです。

「夢が叶った」と思ったその先は、想像以上に大変なことがたくさんありました。今はまだ先輩方に助けられて、迷惑をかけてばかりですが、それでも少しずつできることが増えていくことに喜びを感じています。過去に先輩方が資料を選び守ってきた努力を、私の力不足で無駄にすることがないように、必要とする方に資料や情報を確実に届けられるようになることが、私の新しい夢になりました。

新しい夢が叶ったと言える日が、いつになるのかはわかりませんが、一步一步成長して毎日を過ごしていきたいと思います。

(調査相談係)



一三田市との連携一

4月1日、従来北区の一部の住民に限られてきた三田市立図書館の貸出利用が、全ての北区民にも可能となった。ネット予約不可など一部制限はあるものの、長年の要望事項が実現した。5月末現在、神戸市からの登録者は725人。この相互利用の実現に伴い両市間での資料の相互貸借を、北区の市民図書室を中継場所とすることで無料化した。(総務課担当課長・鎌田)

一『神戸外国人居留地計画図』市指定文化財に一

当館所蔵の『居留地計画図』2幅が、市立博物館所蔵の1幅と共に、開港150年の今年3月、神戸市指定有形文化財に指定された。3幅は比較することによって、神戸市発展の原点ともいえる居留地の変遷を辿ることができる。中央図書館では、この指定を機に「貴重資料デジタルアーカイブズで見る神戸外国人居留地」展を開催。計画図をはじめ、開港当時の様子が窺える版画や写真パネルは好評で、撮影を希望される方も多かった。(調査相談係長・大黒)

一拡大読書器とDAISY再生機の寄付について一

図書館において障害者サービスのボランティア活動をされていた故西村信子氏から、多額のご寄付を頂いた。故人の遺志に添って中央図書館に拡大読書器と各図書館用にDAISY再生機を購入した。障害者サービスの充実につなげたい。(企画情報係長・村井)

一予約業務見直しから1年一

一昨年、平成27年にワーキンググループを立ち上げて予約業務の見直しを検討し、上限のなかった予約受付冊数を、一人20冊までとした。PR期間を経て、昨年6月21日より全館で上限設定を開始してほぼ1年が経つ。翌22日に抽出した予約件数のデータと、1年後の今年6月22日に抽出したデータを比較すると、予約冊数は、259,856冊と241,505冊で、約18,000冊の減となっている。また、総予約冊数、

1人が1回に借りる予約本冊数の平均、予約者数等を用いて計算した平均の待ち週数は、昨年の9.7週から9.3週へと0.4週(2.8日)短縮していることがわかった。予約受付から提供までの本の動きに注視していきたい。(市民サービス係長・榊井)

一駅周辺返却ポストの廃止一

平成26年度以降、身近な図書館サービスの一環としてJR灘駅、北神急行谷上駅、山陽電車舞子公園駅に試行設置してきた返却ポストは、利用度が当初目標に届かず、平成28年度をもって事業廃止となった。利便性やコストの観点から、より効果的なサービスを再考していきたい。(総務課担当課長・鎌田)

一手帳一

(人事) 3.31 退職

楠多恵(調査相談係)、長島史佳(調査相談係)
大藪宏人(市民サービス係)

4.1 人事異動(※は転出者)

村井博之(総務課担当係長)、棟安陽子(資料係長)
榊井里香(市民サービス係長)
阪本和子(利用サービス課担当係長)
藪下武彦(市民サービス係)
大野穂波(新規採用)、竹中晴香(新規採用)

※福永直子

(神戸市外国語大学学術情報センターグループ係長)

4.12 人事異動

上田亜弓(調査相談係)、森鼻淑子(総務係)

※中尾清美(灘区保険年金医療課)

(会議) 5.23 兵庫県図書館協会理事会

6.13 兵庫県図書館協会総会

6.19 文教こども委員会

(研修) 6.15 館内研修

(行事) 4.23 こどもの読書週間講演会

(その他) 4.18・4.19「学びの門」撤去

ポートもあり、小学1年生を含む参加者全員が、オリジナルのドイツ装本を完成させることができた。真剣な表情で取り組んだ子供たちは、「難しかったけれど楽しかった」「次の図書館イベントにも参加したい」と満足そうだった。3月20日開催。

【三宮・元町界隈なつかしのイラスト展(三宮図書館)】
三宮図書館は、勤労会館1階ギャラリーを利用し、イラスト画家もふもふ堂による、昭和40・50年代の三宮周辺の風景のイラスト画を展示した。ご覧になった方からは、「懐かしい」「家族を思い出した」といった感想を頂いた。この展示をきっかけとして初めて図書館へと足を運んでくださった方も多数あり、既存の利用者以外にも図書館の存在をアピールできた。展示は5月4日で終了。(企画情報係・布川)

■地域館トピックス■



【兵庫下町まちあるき(兵庫図書館)】

庶民派グルメライターの芝田真督さんを案内人に、兵庫区のレトロな飲食店や歴史ある風景を巡るイベントを実施。地域の方々に温かく迎えられて街の雰囲気を楽しみ、その魅力に改めて気付くひと時であった。参加者は、昭和の街並みに興味がある人や、この地域にゆかりのある人など10人。イラストレーター・赤松かおりさんにご同行頂き、当日のコースをイラストマップとして後日展示。参加者に配付する。5月21日開催。(企画情報係・西山)

【本づくり教室(西図書館)】

自分の「読書シート」を1冊の本へと製本する、本づくり教室を西図書館で開催した。スタッフのサ